
Sなお嬢様と、Nな僕。

モンキィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Sなお嬢様と、Nな僕。

【Nコード】

N5580B

【作者名】

モンキィ

【あらすじ】

どSなお嬢様の元に使える極一般てきな僕、榊原大輔（23歳）
独身。どSなお嬢様に毎日毎日、蹴られ、殴られ、罵られ・・・。
毎日枕をぬらしてました。そして僕は、耐え切れず、家出をしたの
です！！

朝起きて、始めて見たものが野良猫でした。by榊原。

今日初めて野宿しました。

それも、横に倒れてる土管のなかで、野良猫を抱いて……。

僕は榊原さかきばら 大輔だいすけ（23歳）独身。

19歳の時、2年バイトしてた店から放り出されて春日崎かすがさき 裕美ゆみ（17歳）に拾われました。

裕美お嬢様は春日崎グループという大きな会社の社長令嬢で、才色兼備の女性。

僕はその方の召使というか執事というか……のびみよくな役職に付いたんです。

でも……、ココだけの話……お嬢様は『どS』なんです。

だから、僕は毎日毎日、蹴られ、殴られ、罵られ……。枕をぬらす毎日でした。

ですが、仕事のない僕を拾ってくださったお方。

心のそこは優しいっ！っ！って、思ってたのに……。

昨日、お嬢様の気まぐれのために夕方大雨の中、買い物へと行きま
した。

「榊原。私はあのお店の肉しか食べないの。あと、野菜はあのお店はあそこ。フルーツはあっち。あっ！デザートはあそこのフランス料理店から、持ってきてね。ぐちゃぐちゃにしちゃ駄目よ。」

との、お嬢様のご命令で、真反対の店に寄らされたり、隣町どころか4町先の店に行かされたりが、しょっちゅうでした。

時々、本当に僕は召使なんだろうか？

お嬢様は奴隷と召使を間違っているのではないか？

と、思うのです……。

そして、いろんな店を回って、あとフランス料理店へ寄るだけでした……。

そこで悲劇は起こるのです……！

僕は、いつもどおりデザートを買いました。

「（よく考えれば、このシェフを雇えばいいじゃないか……）」

そして、店を出ようとしたところ……

t r r r r r …… t r r r r r ……

お嬢様専用の携帯がなりました……。

《……榊？いま、何処？》

その声は恐ろしく凍りついていました。まるで、ブリザードのよう

「えっと……。フランス料理店の《おっそいんじゃいっ！このドンがめがああ！春日崎家の召使の決まり忘れたんかあああ！！ほら、言うてみい！！》

お嬢様は僕の答えも待たず、怒鳴り散らしました。

「はいいっつ！！一つ、お嬢様の言うことは絶対。一つ、お嬢様は全てにおいて一番！一つ、お嬢様の言うことは迅速にかつ、丁寧！！一つ、お嬢様に反論にしない！！ひと《分かってんなら、はよ帰って来いよ！！これから10分以内に帰ってこないと、ムチでひっぱたいて、棒につるし上げて笑いものにしてやる！！》
ぶちんっ！！

お嬢様は言うだけいって電話を切ってしまった。
ココから、全力疾走で走って、ぎりぎり10分。

僕は走ることしか出来なかった。

デザートをなるべく揺らさないように雨の中を走る。

あと少しでお屋敷っ！！時間も何とか間に合いそう……。

ああ……。僕はなんて不運なんだろう？

僕の足元には誰かが食べたバナナの皮が落ちてました。
僕はそれをよけることが出来ず、あきらめました。

体がふわつとつき、空を見ながら落ちてゆく……。
ああ、花びらは落ちるときこんな感じなんだろう。

デザートも僕と一緒に横に倒れて、中を見たくなかった。

「おまあ、ふざけてんのか？こんな買い物も出来なくて……。の
ーみそ詰まってるのか？よりによってデザートを……。アホにも、
ほどがあるんだよ！このクソアホ！！」

僕の頬にはくつきりとした手形が付いていて、それでもお嬢様はな
んやら長い棒で僕を叩こうとする。

僕はMではない。ぼくはSとMの真ん中のNだ。
いじめられてばかりだともう、嫌になる。

「あああ、今日、これ食べたかったのに……。いつ？」

お嬢様は目を見開いてこっちを見た。

きつと、僕の中から透明な液体が流れていたからだろう。
これじゃあ、どっちが男か女か分からない。

「お嬢様はつつ……。僕をなんだと思ってるんですかっ！ひつ。
こんなに買い物押し付けてつつ……。こんな、そのみせに配達し
てもらった方が早いじゃないですかっ！デザートだって……。シエ
フを雇えばいいじゃないかあ……。ぼつ……。ぼくはごく一般的
な男だあああああ！！」

そう言っつて僕は、屋敷を飛び出した。

僕はNなんだ。時には、人を怒りたい時だってある。
あのお嬢様にはM系の召使がいいんだ。

うわあああああ・・・もう・・・いやだっあ・・・。

こうして僕は、そこらへんに居た野良猫を抱いて土管にもぐりました。

そして、この23年間は何じめての野宿をしましたとさ。

あゝあ、これから、なにしよう・・・？

どうせ、お嬢様は僕の代わりなんて、何人も居るんだ。

「・・・僕なんか必要ないんだ。」

「誰がお前を必要ないって？」

独り言の僕の言葉に返事するかのような声は・・・お嬢様の声だった。

「・・・お譲・・・様？」

お嬢様の格好はいつもからは想像も付かないようなボロボロの格好

だった。

「いやっ！これは、別に榊原を探していたわけではなくて・・・あれだよ、あれ。サバイバル体験？」

その様に言うお嬢様の顔は心なしが赤かった。

「とっ、とにかく、お前がいらないといじめる奴がおらんくてつまらない。・・・まあ、ちよつとやりすぎていたかな・・・？いいかい！これは命令だ。早くうちへ戻ってきて私の世話をしろっ！」

お嬢様の言葉はまだ、とげとげしかったが、何だか嬉しかった。

「はいっ！これからもよろしくお願いします！！」

僕が笑うとお嬢様はスツと、そつぽを向いた。

どうしたんだらう・・・？

「あと・・・、私は、お前を召使とも、奴隷とも思っていない。私は・・・！！早く帰るぞっ！！」

お嬢様は途中で言うのを止めてしまい、何が言いたかったのか分からなかったが、そんなお嬢様がとても可愛く見えた。

これからも、僕はお嬢様の元でNの召使として、生きてゆきます。

(後書き)

勢いだけではないです。……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5580b/>

Sなお嬢様と、Nな僕。

2010年11月16日18時40分発行